

# 第40回「環境賞」に5件

# 地球規模の環境保全期待

日立環境財団と日刊工業新聞社が共催する第40回「環境賞」の入賞案件が決定した。応募総数50件の中から、優秀賞3件、優良賞1件、40回記念特別賞1件の計5件が入賞。環境大臣賞・優秀賞は日本航空、ジャムコ、JAL財団、国立環境研究所、気象庁気象研究所で構成したCONTRAILプロジェクトチームによる「定期航空路線を利用した温室効果ガスのグローバル観測」が受賞した。今回は官民連携による環境計測技術、省エネ、リサイクルなど時代のニーズにマッチした案件が高く評価されたのに加え、社会インフラ維持の低コスト化技術、東日本大震災からの復旧に際しての提言など、個人の環境問題に対する熱意を感じさせる受賞案件が目立つ。(1面参照)

## 「環境大臣賞」官民連携の好例

審査委員長

合志 陽一



環境賞は1974年の第1回授賞以来、今回で第40回を迎えます。これまでわが国はさまざまな環境問題を抱えてきました。日本人の技術と知恵はこれらの問題に正面から取り組み、世界に誇りうる国土を作ってきました。環境問題にいち早く着目し、警鐘を鳴らすとともに解決手段を提示する上で環境賞が果たしてきた役割は小さくなく、たとえ自負しています。

審査委員長 合志 陽一  
環境賞は1974年の第1回授賞以来、今回で第40回を迎えます。これまでわが国はさまざまな環境問題を抱えてきました。日本人の技術と知恵はこれらの問題に正面から取り組み、世界に誇りうる国土を作ってきました。環境問題にいち早く着目し、警鐘を鳴らすとともに解決手段を提示する上で環境賞が果たしてきた役割は小さくなく、たとえ自負しています。

## 審査概評

審査委員長 合志 陽一  
環境賞は1974年の第1回授賞以来、今回で第40回を迎えます。これまでわが国はさまざまな環境問題を抱えてきました。日本人の技術と知恵はこれらの問題に正面から取り組み、世界に誇りうる国土を作ってきました。環境問題にいち早く着目し、警鐘を鳴らすとともに解決手段を提示する上で環境賞が果たしてきた役割は小さくなく、たとえ自負しています。

## 【環境大臣賞・優秀賞】

将来の地球温暖化の正確な予測には、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の濃度を観測することが不可欠である。現在の世界では100カ所あまりの観測所が設置されているが、観測の精度や観測の頻度が十分でない地域や観測が実施されていない地域も数多く存在している。本賞は、観測の精度や観測の頻度を向上させることに貢献した観測装置の開発や観測の実施に優れた観測所を表彰する。



777-200ER型機に搭載された2つの観測装置  
この飛行機は上空のCO<sub>2</sub>濃度を観測しています。右側の観測装置は、大気中のCO<sub>2</sub>濃度を観測するための装置です。左側の観測装置は、大気中のCO<sub>2</sub>濃度を観測するための装置です。

## 高頻度に観測データ取得

高頻度に観測データ取得  
定期航空路線を利用した高頻度観測の実現により、これまで観測の空白地域であった東南アジアやインド上空のCO<sub>2</sub>濃度変動が得られ、南アジアを含む熱帯地域のCO<sub>2</sub>排出・吸収量の見積りも誤差が大幅に軽減された。また、豪州線の観測による北半球起源の高濃度CO<sub>2</sub>気塊の上部対流圏を通じた南半球への輸送評価など、これまで不明であったCO<sub>2</sub>の変動強度や地球規模の大気輸送経路なども明らかになった。取得された観測データは各国の研究者にも提供され、人工衛星による遠隔測定データの検証、大気CO<sub>2</sub>濃度の数値シミュレーションなどの研究にも利用され、全球のCO<sub>2</sub>循環の実態解明に大きく貢献している。

またサントリーは民間企業として森林保護など飲料用地下水の保全に積極的に取り組んでおり、環境保全に対する努力と実績は高く評価されます。優良賞に選ばれた防草剤は、草の成長特性を逆手に利用した興味ある防草技術です。草は重力に逆らって上向きに成長しますが、本来の成長方向とは逆方向に誘導されると成長が阻害されるといふ面白い性質があります。例えば道路の緑石側面に道路に並行する溝を作り、溝の角度を下方向に鋭角にするようにしておくと、下から緑石側面に沿って成長してきた雑草が溝に入り込んで頭を下向きに曲げられ、その結果、成長が止まります。これはまさに「コンパス」の卵の発想ですが、既に多くの実績も重ねている素晴らしい技術です。40回記念特別賞には、この技術を今後広く普及することに期待します。

- 第40回「環境賞」審査委員(敬称略、順不同)
- 【委員長】合志 陽一 ..... 国際環境研究協会会長、東京大学名誉教授
  - 【委員】石井 吉徳 ..... もったいない学会会長、東京大学名誉教授
  - 大井 玄 ..... 東京大学名誉教授
  - 住 明正 ..... 国立環境研究所理事長
  - 大塚 柳太郎 ..... 自然環境研究センター理事長、東京大学名誉教授
  - 松野 建一 ..... 日本工業大学教授・工業技術博物館館長
  - 丸山 瑛一 ..... 元日立製作所理事
  - 本川 達雄 ..... 東京工業大学大学院教授
  - 安河内 順 ..... 九州大学大学院教授
  - 白石 明 ..... 環境省総合環境政策局長
  - 系永 正行 ..... 前日刊工業産業研究所所長

明日へつなぐ。

「みずみずしい緑の地球」を次の世代の人たちへ

緑豊かな地球環境を次の世代の人々にバトンタッチし、持続可能な社会を築いていくための取り組みは、現代に生きる私たちに課せられた最も重要な課題です。環境とともに歩んで41年、日立環境財団はこれからも美しい地球環境と未来の豊かな生活の両立を願い、活動を推進していきます。

「環境賞」の贈呈  
機関誌「環境研究」の発行  
環境NPO助成、調査研究  
環境教育の普及啓発活動

事業内容

公益財団法人 日立環境財団

〒101-8010 東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDXビル21F Tel.: 03-3257-0851 www.hitachi-zaidan.org/kankyo/

